

# 申し入れ

鎌ケ谷市長 清水聖士様

2021年1月6日

民主と自治の会

藤代政夫 渡邊俊彦

佐藤剛 戸部光枝

連絡先：藤代 047-445-9144

日頃より鎌ケ谷市民の福祉向上のためご尽力いただき心より敬意を表します。  
「第八期鎌ケ谷市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（案）」についてよく分からない点があるのでお聞きいたします。

## I、「在宅介護」について：

Q1、どのような介護を目指しているのでしょうか？

Q2、実態調査結果で“主たる介護者が「子」とありますが子ども達に介護をさせることでよいのでしょうか？在宅介護も公的な支援ではないのですか？

Q3、今後の方向性に“介護者のレスパイトケアを支援していくことが重要”とありますが、その必要性は同感ですが介護は同居人がやることなのでしょうか？日本の介護保険のモデル「オランダ」では単身の独居老人に対しても公的な在宅介護が出来ているとのこと。日本では同居あるいは近くに住む子による介護が主というのはおかしいのではないのでしょうか？

## II、人的基盤：

Q1、介護人材不足に対してどう人材確保していくと考えているのでしょうか？

Q2、目標人材数はどのくらい？で現在の人材数はどのくらいですか？

## III、住居型有料老人ホーム&サービス付高齢者住宅：

Q、どのくらいを目標とするのか？目標数の根拠を教えてください。

## IV、地域包括ケアシステムについて：

Q1、「地域包括ケアシステム」は「みつぎ病院」で考え出されたもの、又佐久総合病院では以前からこのようなケア科が置かれていますが、鎌ケ谷の計画では「医療と介護との連携」とは具体的にどういうことでしょうか？

c f 「みつぎ病院」：「どうして手術して病院から出て行った人たちが寝たきりになっているのか？」（山口医師）から“寝たきりゼロ作戦”へ。

c f 佐久総合病院：“訪問診療+訪問看護”を医師と看護師が一緒となっていく地域ケア科（診ている人がどのような生活をしているのか生活環境を把握することの大切さ）

Q2、高齢者支援に限ったような施策になっているが、以前石川先生が提案していた“鎌ヶ谷モデル＝高齢者も・子どもも・障がいのある人もない人も一人一人に寄り添うケアの街鎌ヶ谷といった街づくり”の視点はどうなったのでしょうか？

Q3、医療と介護の一体化というが、これまで一体化していないことで「困ったこと」「問題となったこと」はどのようなことですか？

地域包括ケアシステムにすることでどのように解決されるのですか？（具体的に）

Q4、地域包括ケアシステムを導入することで導入前と何がどのように変わるのですか？これまで高齢者支援施策で出来ていたことの上に何が加わるのですか？、変わるのですか？

Q5、「地域包括支援センター」のこれまでの機能・役割は何ですか？

Q6、地域包括ケアシステムの中での地域包括支援センターの役割は？機能は？何が変わるのですか？それで何が解決できるのですか？

Q7、P40～42 に地域包括ケアシステムのための課題が記載されていますが、「訪問診療」が出来る医療機関が鎌ヶ谷市にどれだけありますか？今後鎌ヶ谷市民にとって必要な量はどのくらいですか？資源としてまかなえるのですか？

Q8、病院・診療所・介護事務所とは具体的にどのように連携するのですか？

#### V、介護保険事業：

Q、介護職の処遇の低さは保育士並みに低いです（平均労働者と比べて約10万円／月低い）。どのように解決しますか？

以上、今後の高齢者福祉、地域包括ケアシステムを作っていくうえで市民と行政が一緒に考えなければならぬことだと思います。疑問にお答えいただきたく存じます。1月29日までに文書でお答えいただければ幸いです。